

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6761994号
(P6761994)

(45) 発行日 令和2年9月30日 (2020.9.30)

(24) 登録日 令和2年9月10日 (2020.9.10)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 G 19/12 (2006.01) A 4 7 G 19/12 M

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2016-153951 (P2016-153951)	(73) 特許権者	000158781
(22) 出願日	平成28年8月4日 (2016.8.4)		紀伊産業株式会社
(65) 公開番号	特開2018-19973 (P2018-19973A)		大阪府大阪市中央区本町1丁目3番20号
(43) 公開日	平成30年2月8日 (2018.2.8)	(74) 代理人	100091683
審査請求日	令和1年6月11日 (2019.6.11)		弁理士 ▲吉▼川 俊雄
		(74) 代理人	100179316
			弁理士 市川 寛奈
		(72) 発明者	水谷 昌一
			大阪府藤井寺市川北2丁目2番4号 紀伊
			産業株式会社設計部内
		(72) 発明者	石塚 一志
			大阪府藤井寺市川北2丁目2番4号 紀伊
			産業株式会社設計部内
		審査官	永富 宏之
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 アイスペール

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外容器、および、前記外容器内に着脱可能に取り付けられた内容器からなる2層式のアイスペールであって、

前記外容器と前記内容器との間には空間が存在し、

前記内容器の底面には、前記内容器の内部と前記空間とを連通するための水抜き孔が貫通するように設けられており、前記内容器の底面の下面には、下方に突出した脚が設けられており、

前記内容器の内部に収容された氷が溶け出して生じた水が、前記内容器の底面の水抜き孔を介して前記空間へと流出し、前記空間内に溜まった水は外部に排出可能であり、

前記水抜き孔は、前記内容器の底面および前記脚を縦方向に貫通していることを特徴とするアイスペール。

【請求項 2】

前記内容器の脚は、側面の下端に切り欠きが設けられ、前記切り欠きは前記水抜き孔と前記空間とを連通することを特徴とする、請求項1に記載のアイスペール。

【請求項 3】

前記内容器の底面の上面は、前記水抜き孔に向かって下方に傾斜する傾斜面を有することを特徴とする、請求項1又は2に記載のアイスペール。

【請求項 4】

前記外容器に、前記空間内に溜まった水を外部に排出するための注ぎ口が設けられてい

10

20

ることを特徴とする、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載のアイスペール。

【請求項 5】

前記内容器の上端から内部へと突出した氷用ストッパーが設けられていることを特徴とする、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載のアイスペール。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、氷を収容する 2 層式のアイスペールに関する。

【背景技術】

【0002】

飲食店等で来店者に氷を提供する際に、氷を入れる容器としてアイスペールが用いられている。アイスペール内の氷は、時間が経過するにつれて徐々に溶け出して水になり、この水が氷と接触することで氷はさらに溶け易くなる。

【0003】

アイスペール内に収容した氷が溶けるのを遅延させるためには、アイスペール内に溶け出した水を処理することが必要となる。アイスペール内に発生した水を処理するために、アイスペールを外桶および内桶からなる 2 層式とし、内桶内の水を外桶と内桶との間の空隙へと流出させる方法が特許文献 1 に記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】 実開平 06-024578 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献 1 のような従来の 2 層式のアイスペールは、内桶内の水を排出することで氷が溶け出すのを遅延させることはできるが、外桶と内桶とが固定されているために、排出された水の溜まる場所を直接洗うことが出来ないことから、衛生上の問題が生じる。

【0006】

そこで、本発明は氷と水を分離して氷が溶け出すのを遅延させるだけではなく、分離した水の溜まる場所を簡単に洗うことができるアイスペールを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明のアイスペールは、外容器、および、前記外容器内に着脱可能に取り付けられた内容器からなる 2 層式のアイスペールであって、前記外容器と前記内容器との間には空間が存在し、前記内容器の底面には、前記内容器の内部と前記空間とを連通するための水抜き孔が貫通するように設けられており、前記内容器の底面の下面には、下方に突出した脚が設けられており、前記内容器の内部に収容された氷が溶け出して生じた水が、前記内容器の底面の水抜き孔を介して前記空間へと流出し、前記空間内に溜まった水は外部に排出可能であることを特徴とする。

【0008】

前記水抜き孔は、前記内容器の底面および前記脚を縦方向に貫通しており、さらに、前記内容器の脚は、側面の下端に切り欠きが設けられ、前記切り欠きは前記水抜き孔と前記空間とを連通する。

【0009】

前記内容器の底面の上面は、前記水抜き孔に向かって下方に傾斜する傾斜面を有する。

【0010】

前記外容器に、前記空間内の水を外部に排出するための注ぎ口が設けられている。

【0011】

前記内容器の上端から内部へと突出した氷用ストッパーが設けられている。

10

20

30

40

50

【発明の効果】

【0012】

本発明のアイスペールは、外容器、および、前記外容器内に着脱可能に取り付けられた内容容器からなる２層式のアイスペールであって、前記外容器と前記内容容器との間には空間が存在し、前記内容容器の底面には、前記内容容器の内部と前記空間とを連通するための水抜き孔が貫通するように設けられており、前記内容容器の底面の下面には、下方に突出した脚が設けられており、前記内容容器の内部に収容された氷が溶け出して生じた水が、前記内容容器の底面の水抜き孔を介して前記空間へと流出し、前記空間内に溜まった水は外部に排出可能であることにより、氷と、氷が溶け出して生じた水とを分離することで、氷が溶け出すのを遅延させることができ、さらに、外容器から内容容器を取り外した際に、前記脚により内容容器を安定した状態で置くことができ、さらに、外容器および内容容器を別々に洗うことができることから、分離した水が溜まる空間を清潔な状態に保つことができるようになる。

10

【0013】

さらに、前記内容容器の底面の上面は、前記水抜き孔に向かって下方に傾斜する傾斜面を有することにより、水がスムーズに水抜き孔へと流れて前記空間へと流出することで、氷が水に触れる時間を短縮することができ、氷が溶け出すのをさらに遅延させることができる。

【0014】

前記外容器に、前記空間内の水を外部に排出するための注ぎ口が設けられていることにより、内容容器を外容器から取り外すことなく簡単に前記空間内に溜まった水を外部に排出することができる。

20

【0015】

前記内容容器の上端から内部へと突出した氷用ストッパーが設けられていることにより、前記空間内の水を外部に排出するためにアイスペールを傾けた時に氷が前記内容容器から出てしまうのを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図１】本発明の第１の実施形態のアイスペールの断面図である。

【図２】図１と直交する方向のアイスペールの断面図である。

30

【図３】第１の実施形態のアイスペールの平面図である。

【図４】第１の実施形態のアイスペールの側面図である。

【図５】第１の実施形態のアイスペールの内容容器の側面図である。

【図６】第１の実施形態のアイスペールの外容器の断面図である。

【図７】本発明の第２の実施形態のアイスペールの平面図である。

【図８】第２の実施形態のアイスペールの断面図である。

【図９】本発明の第３の実施形態のアイスペールの断面図である。

【図１０】第３の実施形態のアイスペールの平面図である。

【図１１】第３の実施形態のアイスペールの使用状態を示す断面図である。

40

【発明を実施するための形態】

【0017】

本発明のアイスペール１を、図を用いて以下に詳細に説明する。図１，２が本発明の第１の実施形態のアイスペール１の断面図であり、図３が平面図、図４が側面図である。

【0018】

第１の実施形態のアイスペール１は、図１～４に示すように、外容器２、内容容器３、および、持ち手４から構成され、図１，２に示すように、前記外容器２と前記内容容器３との間には空間５が存在する２層式であり、前記内容容器３内に氷を収容して使用するものである。

【0019】

前記外容器２は略円筒形の側面および円形の底面を有し、前記側面の一部がクチバシ状

50

に形成されて注ぎ口 6 が設けられている。また、前記外容器 2 の側面の内側には、図 6 に示すようなリブ 1 1 が、2 つ対向するように設けられており、前記リブ 1 1 は前記外容器 2 と前記内容器 3 との係合に用いられる。前記外容器 2 の側面の外側には、図 2 に示すように、前記持ち手 4 を前記外容器 2 にヒンジ係合するための 2 つの環状突起 1 3 が垂直方向に突出するように設けられている。

【0020】

前記内容器 3 は前記外容器 2 内に着脱可能に取り付けられており、略円筒形の側面および円形の底面を有し、前記側面の上端に外側へと突出する環状のフランジが設けられている。前記フランジは前記外容器 2 の上端と当接するように形成されている。前記内容器 3 の底面には、図 3 に示すように、3 つの脚 7 および 3 つの水抜き孔 8 が設けられており、図 1 に示すように、前記水抜き孔 8 は、前記内容器 3 の底面および前記脚 7 を垂直に貫通するように形成されている。3 つの前記脚 7 および 3 つの前記水抜き孔 8 は、図 3 に示すように、前記内容器 3 の円形の底面に、同一円周上に等間隔で配置されている。前記脚 7 の側面の下端には、図 2 に示すような略円弧状の切り欠き 1 0 が、対向するように 2 つ設けられている。前記切り欠き 1 0 は、前記水抜き孔 8 と前記空間 5 とを連通している。

10

【0021】

前記アイスペール 1 は、前記内容器 3 を前記外容器 2 に着脱可能に取り付けていることからガタツキが生じる可能性があるが、本発明のアイスペール 1 は、前記内容器 3 に脚 7 を設けることによりガタツキを押え、安定した状態で使用することが出来る。前記脚 7 の数を増やすと安定性は増加するが、前記空間 5 の容積が減少し、また底面を洗い難くなることから、これらを踏まえて脚 7 の数を検討する必要があるが、本実施形態のように 3 つ配置することが好ましい。

20

【0022】

前記内容器 3 の底面の上面は、中心から側面へと放射状に延伸する 3 つの折れ線 1 6 および底面の外周から、3 つの前記水抜き孔 8 に向かってそれぞれ下方に傾斜する 3 つのすり鉢状の傾斜面 9 が設けられている。前記傾斜面 9 の平面形状は、図 3 に示すように、3 つの折れ線 1 6 によって、円を 3 等分したものとなっている。前記傾斜面 9 によって、前記内容器 3 の底面上の水は、いずれかの水抜き孔 8 へと誘導され、前記水抜き孔 8 内を通過した水は、前記脚 7 の切り欠き 1 0 を通って、前記外容器 2 と前記内容器 3 との間の空間 5 へと流れる。前記アイスペール 1 は、前記内容器 3 の底面に傾斜面 9 を設けることでスムーズに水を前記水抜き孔 8 へと流出させることが出来る。

30

【0023】

前記内容器 3 の側面の外側には、図 5 に示すような略 L 字状のリブによって形成された溝 1 2 が設けられており、前記溝 1 2 内には、垂直方向に延伸する凸部 1 5 が設けられている。前記溝 1 2 および前記凸部 1 5 は、前記外容器 2 の 2 つのリブ 1 1 との係合に用いられるものであり、前記溝 1 2 は図 5 に示す位置だけでなく、前記内容器 3 の側面の外側の反対側にも設けられているので、前記内容器 3 には 2 つの溝 1 2 が設けられている。前記内容器 3 を前記外容器 2 の中に入れ、前記内容器 3 のフランジに前記外容器 2 の上端を接触させた状態で前記内容器 3 を前記外容器 2 に対して回動させると、前記外容器 2 の 2 つのリブ 1 1 が、それぞれ前記内容器 3 の 2 つの溝 1 2 内へと挿入され、その後、前記凸部 1 5 を乗り越えて、図 1 に破線で示す状態となることにより、前記内容器 3 は前記外容器 2 に固定され、前記アイスペール 1 が使用できる状態となる。

40

【0024】

前記アイスペール 1 は、前記内容器 3 を反対方向に回動させると、前記外容器 2 のリブ 1 1 が前記凸部 1 5 を乗り越えて、その後、前記内容器 3 の溝 1 2 から出て前記外容器 2 と前記内容器 3 との係合が解除され、前記内容器 3 を上方へと移動させることで前記外容器 2 から取り外すことができる。このように、本発明のアイスペール 1 は、前記内容器 3 が前記外容器 2 に対して着脱可能に取り付けられていることから、前記外容器 2 と前記内容器 3 を分離して洗うことができるので、前記空間 5 を清潔に保つことが出来るようになる。前記内容器 3 と前記外容器 2 との係合については互いに着脱可能であればよく、ネジ

50

式等の他の係合方法を用いることもできる。

【0025】

前記持ち手4は、図3に示すように略U字状を有し、両端部にそれぞれ軸14が設けられている。図2に示すように、前記軸14が前記外容器2の環状突起13内へと挿入されてヒンジ係合されていることにより、前記持ち手4は前記容器本体2に対して前記軸14を中心として回動可能に取り付けられている。前記持ち手4を利用して前記アイスペール1を簡単に持ち運ぶことができる。本実施形態では、前記持ち手4を設けているが、前記持ち手4は省略することも可能であり、形状および構造についても特に限定するものではない。

【0026】

10

前記アイスペール1の空間5は、図1, 2に示すように、前記外容器2の側面の内側と前記内容容器3の側面の外側の間、および、前記外容器2の底面の上面と前記内容容器3の底面の下面との間に形成されている。前記空間5の大きさは、前記外容器2および前記内容容器3の大きさ、および、位置関係を変更することで、適宜設定可能である。前記空間5は、前記水抜き孔8によって前記内容容器3内と連通し、前記注ぎ口6によって外部と連通している。これにより、前記内容容器3の内部に収容された氷が溶け出して生じた水は前記空間5へと流出して前記空間5内に溜まり、前記空間5内に溜まった水は、前記注ぎ口6から外部へと排出することができる。

【0027】

本実施形態では、前記外容器2に設けた注ぎ口6を利用して空間5内に溜まった水を外部に排出することができるが、前記外容器2に前記注ぎ口6を設けない形態も可能であり、この場合、前記内容容器3を前記外容器2から取り外し、前記外容器2内に溜まっている水を排出することになる。前記注ぎ口6の形態については特に限定するものではなく、前記空間5内に溜まった水を外部に排出できるものであればよく、前記外容器2の側面に設けた開口とすることも可能である。

20

【0028】

次に、第2の実施形態のアイスペール1'について説明する。第2の実施形態のアイスペール1'は外容器2、内容容器3'、および、持ち手4から構成され、内容容器3の脚7に水抜き孔8を設けた第1の実施形態とは異なり、図7, 8に示すように、内容容器3'の底面に3つの脚17と3つの水抜き孔18を別々に設けている。そのため、前記水抜き孔18は内容容器3'の底面に設けられた開口となっている。第2の実施形態のように前記脚17と前記水抜き孔18を別々に配置する場合、脚17と水抜き孔18の数を一致させる必要はない。第2の実施形態の外容器2および持ち手4は第1の実施形態の外容器2および持ち手4と同じであり、内容容器3'のその他の構造についても第1の実施形態の内容容器3と同じであることから、前記脚17と前記水抜き孔18以外の構造についての詳細な説明は省略する。

30

【0029】

図7に示すように、3つの前記水抜き孔18は第1の実施形態の水抜き孔8と同じ位置にそれぞれ設けられており、3つの前記脚17は、3つの前記水抜き孔18に対して内容容器3'の底面の中心を軸としてそれぞれ60°回動させた位置に設けられており、3つの折れ線16の下にそれぞれ位置している。第2の実施形態のアイスペール1'は、前記水抜き孔18が内容容器3'の底面に設けた開口であり、第1の実施形態のような切り欠き10は不要であることから、第1の実施形態より簡単な構造とすることができる。

40

【0030】

第1の実施形態のアイスペール1のように脚7に水抜き孔8を設ける場合でも、脚7とは異なる位置に第2の実施形態の水抜き孔18または脚17だけを追加して設けることも可能である。本発明において脚7, 17および水抜き孔8, 18の数は特に限定するものではないが、脚の数が少ない場合（例えば1つだけの場合）には、内容容器3が安定するように脚の断面方向の寸法を大きくする必要がある。また、脚7, 17および水抜き孔8, 18の断面形状についても、円形に限定するものではなく他の形状も可能であり、脚7,

50

１７と水抜き孔８，１８とを異なる断面形状とすることも可能である。

【００３１】

次に、第３の実施形態のアイスペール１' 'について説明する。第３の実施形態のアイスペール１' 'は、外容器２、内容器３' '、および、持ち手４から構成され、図９，１０に示すように、前記内容器３' 'の上端から内部へと水平方向に突出した氷用ストッパー１９が設けられている。第３の実施形態のアイスペール１' 'は、外容器２および持ち手４は第１，２の実施形態と同じであり、内容器３' 'についても氷用ストッパー１９以外の構造は第１の実施形態の内容器３とほぼ同じ構造を用いていることから詳細な説明は省略する。

【００３２】

図１０に示すように、前記氷用ストッパー１９は略円弧状の平面形状を有し、前記内容器３' 'において、前記外容器２の注ぎ口６に隣接して配置されている。前記氷用ストッパー１９の形状、大きさ等は本実施形態に限定するものではなく適宜変更可能であり、氷を保持できればよい。

【００３３】

アイスペール１' 'は、前記外容器２と前記内容器３' 'との間の空間５内に溜まった水を注ぎ口６から排出するために、図１１に示すように、前記アイスペール１' 'を傾けると、破線で示すように水を排出することができるが、この時、前記内容器３' '内の氷は前記ストッパー１９によって保持されることから、水を排出する際に氷が落ちるのを防止することができる。前記注ぎ口６から水を排出する際に、前記内容器３' '内に氷が残っていた場合、前記ストッパー１９によって前記内容器３' '内の水をせき止めてしまう可能性があることから、このような水を排出するために前記ストッパー１９にスリット、孔等を設けることも可能である。

【００３４】

このように、本発明のアイスペール１，１'，１' 'は、内容器３，３'，３' '内に収容した氷が溶け出して水となった時、氷は水抜き孔８，１８を通して前記外容器２と前記内容器３，３'，３' 'との間の空間５へと流れて前記空間５内に溜まることから、水と氷とを分離させて前記内容器３，３'，３' '内の氷が氷によって溶け出すのを遅延させることができる。そして、前記空間５内に溜まった氷は、注ぎ口６を利用して、または、前記内容器３，３'，３' 'を前記外容器２から取り外すことで、外部へと簡単に排出することができる。また、前記外容器２と前記内容器３，３'，３' 'は着脱可能であり、取り外した状態で洗うことができるようになり、従来であれば、衛生上の問題が生じる可能性を有していた分離された氷が溜まる前記空間５内を清潔にすることが出来る。また、前記内容器３，３'，３' 'を取り外した際も、脚７，１７によって安定した状態で置いておくことができる。

【符号の説明】

【００３５】

- １，１'，１' ' アイスペール
- ２ 外容器
- ３，３'，３' ' 内容器
- ４ 持ち手
- ５ 空間
- ６ 注ぎ口
- ７ 脚
- ８ 水抜き孔
- ９ 傾斜面
- １０ 切り欠き
- １１ リブ
- １２ 溝
- １３ 環状突起

10

20

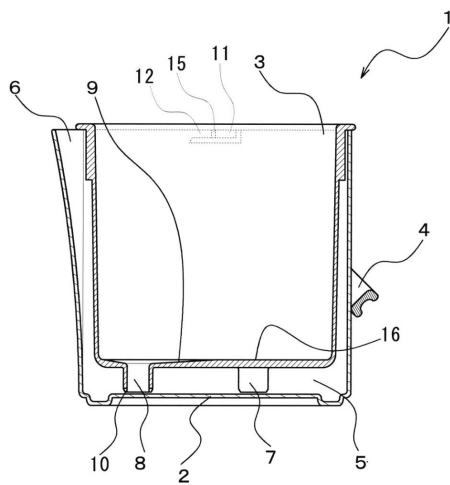
30

40

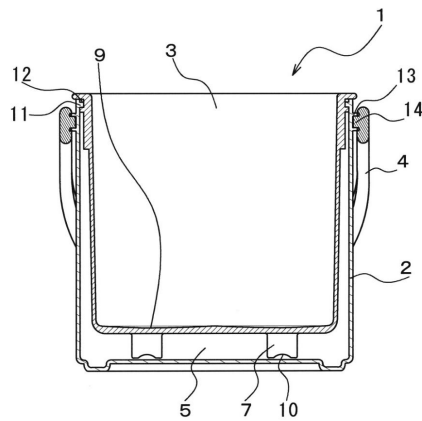
50

- 1 4 軸
- 1 5 凸部
- 1 6 折れ線
- 1 7 脚
- 1 8 水抜き孔
- 1 9 氷用ストッパー

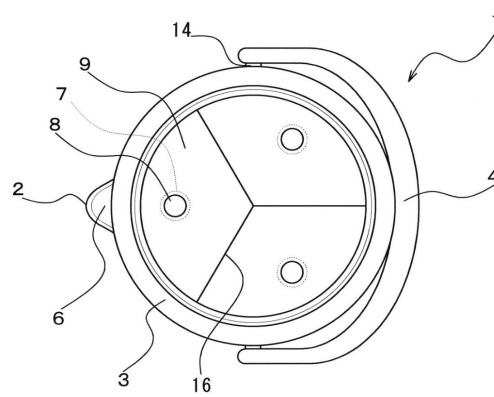
【図 1】



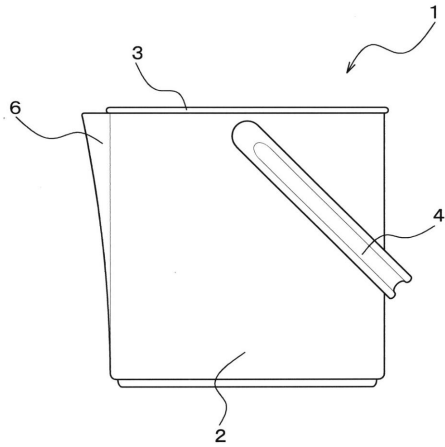
【図 2】



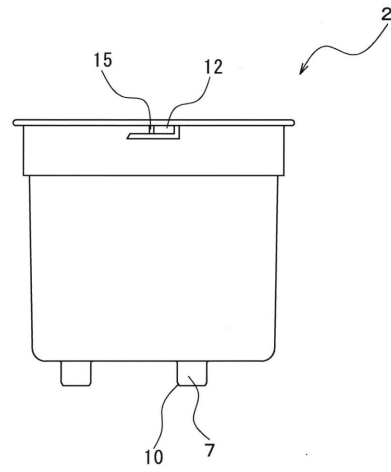
【図 3】



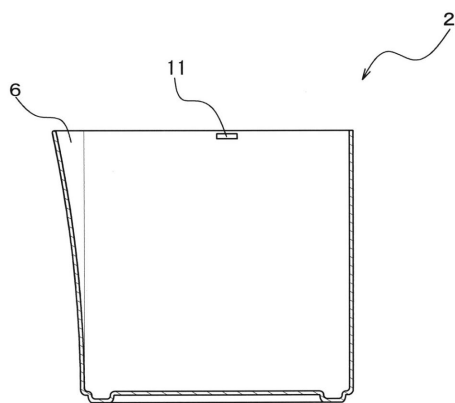
【図 4】



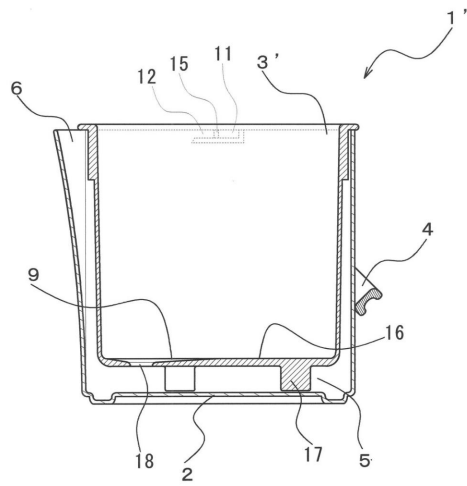
【図 5】



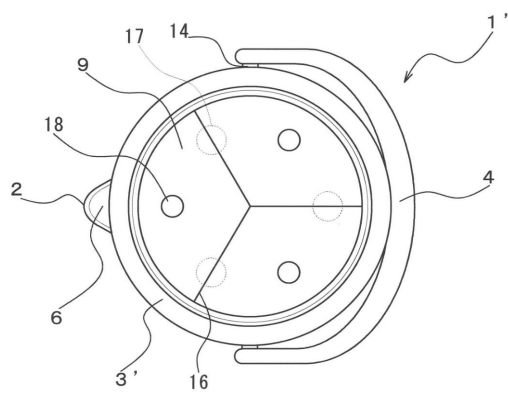
【図 6】



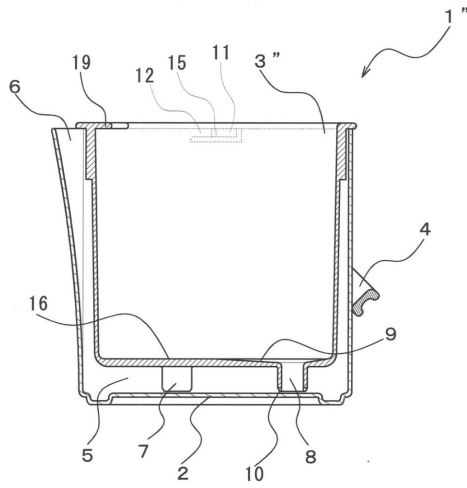
【図 8】



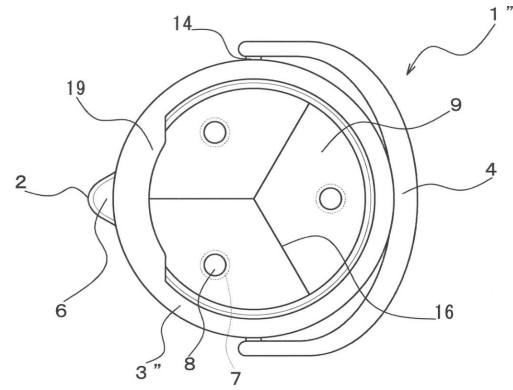
【図 7】



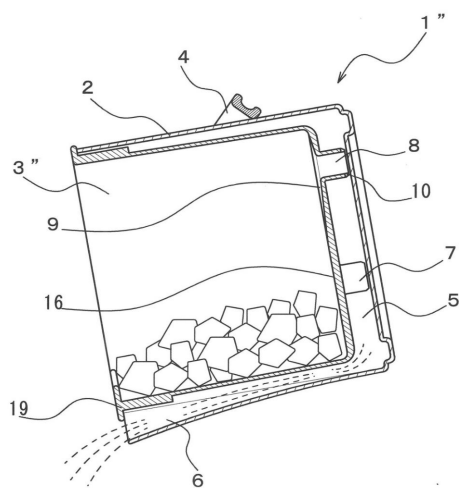
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平08-000429 (JP, A)
実開昭61-170372 (JP, U)
実開昭64-035075 (JP, U)
実開昭53-116374 (JP, U)
実開昭56-106672 (JP, U)
実開昭56-069076 (JP, U)
特開平08-316652 (JP, A)
実開昭55-159982 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A47G 19/12